

平成28年度 事業報告書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

特定非営利活動法人ぽんぽん船

- 理事会（開催年月日 平成28年5月23日）
開催場所 障がい者自立支援事業所ぽんぽん船（出雲市多伎町多岐892-7）
出席理事 8名（理事人数8名）
議決事項の概要
 - ・平成27年度事業報告及び収支決算について
 - ・役員の変更について

- 総会（開催年月日 平成28年5月28日）
開催場所 障がい者自立支援事業所ぽんぽん船（出雲市多伎町多岐892-7）
出席会員 76名（うち表決委任者52名）／会員総数79名
議決事項の概要
 - ・平成27年度事業報告及び活動計算報告について
 - ・平成28年度事業計画及び活動予算（案）について
 - ・役員の変更について

- 理事会（開催年月日 平成28年6月1日）
開催場所 障がい者自立支援事業所ぽんぽん船（出雲市多伎町多岐892-7）
出席理事 9名（理事人数9名）
議決事項の概要
 - ・正副理事長の選任について
 - ・障がい者自立支援事業所ぽんぽん船運営委員の選出について

- 理事会（開催年月日 平成28年6月27日）
開催場所 障がい者自立支援事業所ぽんぽん船（出雲市多伎町多岐892-7）
出席理事 9名（理事人数9名）
議決事項の概要
 - ・事務所増設工事について

- 理事会（開催年月日 平成28年9月30日）
開催場所 障がい者自立支援事業所ぽんぽん船（出雲市多伎町多岐892-7）
出席理事 9名（理事人数9名）
議決事項の概要
 - ・基金の積立について
 - ・施設の改修工事について
 - ・公用車（事務用）の導入について
 - ・基金の取崩しについて
 - ・職員の退職について

- 理事会（開催年月日 平成29年1月20日）
開催場所 障がい者自立支援事業所ぽんぽん船（出雲市多伎町多岐892-7）
出席理事 9名（理事人数9名）
議決事項の概要
 - ・設備整備等積立金の取崩しについて
 - ・就業規則の一部改正について
 - ・非常災害対策計画の策定について
 - ・工賃のきまりの一部改正について

- 理事会（開催年月日 平成29年3月24日）
開催場所 障がい者自立支援事業所ぽんぽん船（出雲市多伎町多岐892-7）
出席理事 9名（理事人数9名）
議決事項の概要
 - ・平成29年度事業計画及び活動予算（案）について

1 事業の成果

「障がい者自立支援事業を中心に、障がいのある方の自立した日常生活、社会生活の支援を行い、ノーマライゼーションの町づくりを推進する」という本法人の目的に沿い、下記事業を実施した。

①【障がい福祉サービス事業】

障がい者の就労支援として、日中活動の場・就職に向けての総合的な訓練の場となるよう、個々に合った働き方を提供していくため、事業所の中での作業だけではなく、外部との関わりも大切にしながら、地域の企業や農業関係者等と連携して、多様な職種に取り組んできた。

[菓子製造]

型から手づくりのオリジナルクッキーとフードプリンターによるプリントクッキー、両方を組み合わせるクッキー等、デザイン・予算ともに、顧客のニーズにあった商品を提案・提供することで、常連客の他、新たな注文も増加し続けている。商品を通して、またクチコミでプリントクッキーが周知され、客層にも広がりがみられている。

利用者の増加に伴い必要となってくる作業量・作業収入の確保に向けて、新商品開発に取り組み、平成28年9月に熊本県の許可を得て、「くまモンのクッキー」を発売した。熊本県産の小麦粉を使用していること、今後も使い続けることで、クッキー作業を通して被災地支援にも取り組んできた。

10店舗ある販売店での売上は、クッキー全体の48%となっており、季節に応じた商品の納品、店舗ごとの客層を見極めての納品により、置けば売れるが、製造・納品が追いつかない状況であった。店舗の特徴を把握して製造計画を立てることが今後の課題である。賞味期限が短いことで店舗での商品管理に手がかかり、ロスも多かったが、専門機関での細菌検査や事業所内での食味検査を行い、賞味期限21日から60日にのぼすことができた。このことにより店舗での商品管理等の手間や期限切れ商品等のムダを省くことができた。

安心・安全で、飽きのこない商品づくり、安定した作業量、作業収入の確保から工賃向上につながっている。

[農作業（農福連携事業）]

平成25年度から3年間、島根県「障がい福祉と農業との連携促進事業（農福連携事業）」の中の「障がい者に適した作業改善、就労形態の実証研究」として、島根県農業技術センターにおいてモデル事業を実施してきた。この実証研究の一環として、平成27年度より地域の農家と契約をし、ぶどうハウスでの作業を実施してきた。平成27度は1軒の農家での実施であったが、ていねいで正確な作業が評価され、平成28年度は4軒の農家に出かけていき、ぶどうハウスでの作業に取り組んだ。

ぶどうの成長に伴い変化する作業の内容やその理由をよく理解し、専門的な作業をこなすことで、農家の信頼を得ることができ、新たに出荷作業の要望もあった。作業種が増えることで作業時間も増え、工賃アップにもつながっている。よりよい商品づくり、より適正な時期の収穫による付加価値の高い商品づくり等、農家のみなさんと同じ目標に向かって作業をすることで、収穫の喜びや働く喜びを味わうとともに、働く中で自信をつけ、心身ともに成長することができた。

[清掃業務]

出雲市より、田儀農村広場・シーサイド公園のトイレ清掃業務を継続して請負い、年間を通して安定した作業となっている。また、社会福祉法人多伎の郷 認知症グループホーム はなんばの里の清掃業務は、マナーや清掃の手順・技術を身につけ、短時間ではあるが週4日の安定した作業となっている。施設外就労を通して地域の方と関わり、交流をするとともに、適度な緊張感を持ちながら作業を行うことで、社会の中で働く力を身につけていく訓練の場にもなっている。

[請負作業]

茶三代一・かみありづき・農家・出雲市等、複数の請負作業を行ってきたが、確実・丁寧な作業を評価され、安定した作業量を確保できるようになってきた。年度後半よりナカバヤシの作業にも取り組み、継続した作業の確保ができるようになる。

[アルミ缶リサイクル]

地域住民をはじめとし、(株)多伎振興・(株)三笠産業等、地域の企業のみなさまのご協力により、昨年度以上のアルミ缶をリサイクルすることができた。缶の引取り価格の微増により、安定した作業収入の確保につながっている。

②【相談支援事業】

福祉サービス等を利用しながら、自宅での安定した地域生活が継続できるよう、本人のニーズと社会資源等の連絡・調整等を行うため、相談支援事業に取り組んできた。旧出雲市・大社町・多伎町の障がい児6名・障がい者1名の相談支援を担当し、関係機関と連携しながら安定した地域生活が継続できるよう支援してきた。

③【地域生活支援事業】

日中一時支援事業を実施。地理的な条件等により、平成28年度の利用希望はなかったが、長期休暇中の充実した活動支援・家族の負担軽減等、今後も地域のニーズに応えることができるよう事業を継続していく方向である。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額 単位(千円)
①障がい福祉サービス事業	就労継続支援B型	通年	障がい者自立支援事業所 ぽんぽん船	6名	26名	34,344
②相談支援事業	指定特定相談支援事業	通年	障がい者自立支援事業所 ぽんぽん船	1名	7名	1,104
③地域生活支援事業	日中一時支援事業	随時	障がい者自立支援事業所 ぽんぽん船	0名	0名	0